

# 古文書を読む会学習記録

作成日 平成27年 8月14日

開催日	平成27年 8月13日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢公会堂3号室	出席人数	12名
講 師	真田雅行氏	作成者	佐藤和広
テーマ	第一学習 永嶋家文書⑧		
概要	<p><b>「寺院梵鐘取り調べ書三」の続きを読む</b></p> <p>幕末、異国船を追い払うため海岸に台場を設置して大砲を備え付けたり、小銃を作る必要にせまられた。そのため諸国の寺院の梵鐘を鑄換しようとし、幕府方から寺院毎の梵鐘の調査及び梵鐘を供出せよとの御触れが出され、御時節柄寺院方一同承知した。しかしながら寺院方自分のところの梵鐘の供出は出来るだけ避けたい。そこで寺院によっては理由をつけて例外扱いとしたい。</p> <p>本件は例外扱い依頼の下書きである。</p> <p><b>例外を認めていただきたい理由</b></p> <p>伝心寺ならびに天然寺、安立寺など、梵鐘は古来よりの名器とは言えないかもしれないが、非常出火などにも使用している。そのうえ、わが村は海辺御備場に近く、通行継場村、渡舟場などにて異国船渡来の節は御備向諸家様方のお休み処、人馬継立、の村となっており、そのうえ御用人夫に徴用される村方であり、また周囲の村々は小さく人は少ない。田地も少なく村人所持の田畑は山の奥深く谷で里から離れ、漁業についている人は住んでいる村より遠く離れている。</p> <p>もし、異国舟渡来の節は迅速に呼び集めるのは困難である。</p> <p>遠く離れて稼いでいる村人を迅速に集めるには、寺院の梵鐘を撞く数を定めて撞けば、村人はそれぞれの働き場所で異国舟渡来と分かり即時に馳せ集まることが出来、何時に限らず速やかに御用に就けると一同集まり僧俗一致しました。</p> <p>いつでも鐘を撞けるように専属の係員を一名順番に置いたので、もし急用筋が起きても安心家業が出来ます。海辺から遠く離れた村と違い、当村は御備場に一番近く、当節一廉の御用に役立っています。</p> <p>もしお慈悲を頂きこれまでの通りに梵鐘をそのままに置いておくことをお許しいただければ、異国船渡来の節は御用人速やかに集まり、一同も安心して家業を続けることが出来まので、一同連印した書付を以てお願い致します。</p> <p style="text-align: center;">安政3辰年</p> <p style="text-align: center;">伝心寺、天然寺、安立寺、町屋村3役人</p>		
次回予定	平成27年8月27日 10:00～12:00 於:金沢公会堂3号室 第二学習 ジョン万次郎帰朝記事⑧		